

第5回 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

日 時：平成29年3月27日（月）13：30～16：00

場 所：独立行政法人水資源機構 朝倉総合事業所 1F 大会議室

出席者：（委員）古賀委員長、荒井委員、小野委員、広渡委員、松井委員、真鍋委員、山根委員
（事務局）22名

（オブザーバ）朝倉市、東峰村、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所、
工事関係者

資 料：

議事次第

資料－1 第5回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 出席者名簿

資料－2 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 設立趣意

資料－3 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 規約

資料－4 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 委員名簿

資料－5 小石原川ダム環境保全対策検討委員会の公開方法について

資料－6 第4回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

資料－7 第5回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 説明資料

審議内容等：

1. 事業の進捗状況について

小石原川ダム建設事業の流れ、工事進捗状況と平成29年度工事予定、事業全体の予定工程について事務局より説明し、委員会として内容を確認した。

2. 前回委員会の審議結果について

前回委員会の意見等について事務局より説明し、委員会として内容を了承された。

3. 保全対策等の取組みについて

生息環境等の整備、植物の重要な種、動物の重要な種、大気環境、水環境等に配慮した取組みについて事務局より説明があった。主要な審議結果及び委員会から出された意見は次のとおり。

- ・ミヤマチャバネセセリの保全を目的としたススキ草地については、本事業に伴って整備している付替道路の法面にもススキの種子吹付けを行っているとのことから、現案のように栗河内地区建設発生土受入跡地の整備箇所において広範囲に配置しなくてもよいと考える。
- ・植栽の維持管理のための下草刈りにより、日当たりのよい環境になることで昆虫類の利用する花の咲く植物等が生育するようになるので、そのような植物は刈り取らないように考慮すると良い。
- ・栗河内地区の湿地環境の整備はイモリを保全対象としているが、その他の水生生物も念頭に湿地環境の水深等について検討すると良い。
- ・湿地環境は遷移の進行により陸化してしまうことを考慮し、維持管理することも合わせて整備

目標を検討することが必要である。

- ・動植物の保全対策としての環境整備案について委員会として了承する。今後、具体的な整備内容（詳細設計）について、専門家の意見も聞きつつ、関係自治体等とも情報共有して維持管理のしくみや体制を構築しながら、実現に向けた検討を進めていくこと。
- ・元来、水田の雑草と扱われていたミズマツバの保全については、環境学習等の付加価値をつけるなど、多様な動機・視点から参画できる仕組み作りができると良い。
- ・生息環境等の整備後の維持管理について関係自治体等の持続的な協力を得るためにも、楽しみながら参加できるプログラムを整備、提供することを検討していくと良い。
- ・本体工事にあわせて移植を実施したこと及び対象植物7種全ての移植に係る知見を蓄積した現時点が工事中の適切な時期と判断でき、環境影響評価書において公表するとしていた「事後調査報告書（工事の実施中）」について、公表することを了承した。
- ・福岡県内の希少野生生物の情報のとりまとめを行っている福岡県保健環境研究所に、小石原川ダムでの植物の重要な種の移植に関する情報を提供していただくと良い。
- ・検討・適用してきた環境保全措置等については、他事業等に知見を波及、応用していくため、プロセスや成果等を学術論文として公表すると良い。
- ・オオムラサキの成虫及び幼虫が確認されなかったとのことであるが、ダムの立ち入り禁止区域以外において愛好家による採集の影響があるのかもしれない。今後、保全に取り組んでいることを広報・周知すると良い。
- ・保全措置として整備した代替横坑でコキクガシラコウモリが確認されたことは、生息に適した非常に良好な環境が維持されている結果であり、よい代替横坑が造れたと考えている。今後、代替横坑にコウモリ類がどれだけ入ってくるか見守って欲しい。
- ・転流に伴う魚類の保護移動（お魚住み替え作戦）の実施にあたり、5月頃であれば河床の石の裏にカジカガエルが産卵している可能性があるため、卵塊も成体・幼体と併せて移動させると良い。
- ・クマタカ保全のための標語作成は良い取り組みなので、その他の生物にも対象を広げ意識啓発を進めて貰えば良い。
- ・曝気循環設備の規模については、資料のとおりでよい。また、将来、アオコが発生するようであれば基数を増設するなどの対応で良い。
- ・既往調査ではオオサンショウウオは確認されておらず小石原川ダム事業地一体には生息していないと考えられるが、念のため環境DNA調査で確認することも検討して欲しい。

4. 専門部会の報告について

- ・クマタカ検討部会の開催状況、審議内容を報告した。
- ・モニタリング対象としているクマタカ5つがいの繁殖状況を報告した。

5. 小石原川ダムモニタリング部会への移行

小石原川ダム環境保全対策検討委員会を平成29年度から小石原川ダムモニタリング部会へ移行することについて、事務局から説明があり、了承された。なお、移行に際しての留意事項とし

て次の意見が出された。

- ・フォローアップ調査では、生物の経年的な種数の比較を行うため、調査年ごとの調査地点や調査時期を同一にして実施した方が良い。
- ・モニタリング調査の結果は、フォローアップ委員会へ報告を行うが、審議の内容及び時間が限られたものであるため、モニタリング部会での審議が重要である。

6. 地域連携について

生息環境等の整備について、今後とも関係自治体等と連携しながら進めていただきたい旨の助言があり、地元自治体の出席者から以下のコメントが寄せられた。

- ・水浦地区については、今後、整備内容の具体化や利活用の方法について協議や連携を密に行い整備を進めていきたい。

以 上